

福井県立大学の今後の方向性について

(第3期中期目標・計画(H31~H36) 骨子(案))

《基本目標》

- ・ 開学から第2クォーターとなる25年間の始まりに当たり、地域をリードする公立大学として、福井県の特徴を活かした人材育成の方向性を明らかにする。
- ・ 新たな学部・学科の設置、定員拡大等により、若者に魅力があり、「福井の元気・持続可能性を支える大学」を目指す。
- ・ 「オープン・ユニバーシティ」(県民のにわ、県民の学び、県民・地域とのつながり)の理念を定着させ、さらなる地域貢献を推進する。

(1) 福井県の特徴を活かした新学部・新学科の創設

全学部(経済学部、生物資源学部、海洋生物資源学部、看護福祉学部等)において、新学部・学科設置など定員を拡大し、時代の変化と地域社会のニーズに対応

- ① 生物資源学部の単一学科を改め、微生物、植物の遺伝子レベルの先端的研究を行う「生物資源学科」に加え、AI等を導入した生産から加工販売、マーケティング、環境保全まで幅広く「農」を学び、新世代の農業経営者など地域社会を担う人材を育成する学科「食農環境創造学科」(仮称)を新たに設置
- ② 海洋生物資源学部の単一学科を改め、海洋生物の生態、食品加工等の研究を行う「海洋生物資源学科」に加え、新魚種の導入や養殖技術の開発、新市場開拓などの水産増養殖を専門的に学ぶ学科を新たに設置
- ③ 恐竜学研究所の学術成果や大学院古生物学分野の指導実績を基に、年縞に関する古気候学などを取り入れ、世界的な学術拠点となる古生物学関係の新学部を設置
- ④ 地域経済研究所の研究活動成果等を活かし、地域の産業、自然、歴史、文化などの学修をベースに、地域経済の発展に必要となる現場力、マネジメント力を身に付けた次世代の地域リーダーを養成する新学部等を設置
- ⑤ 看護の高度な教育・研究人材を育成する大学院看護学専攻の博士後期課程を設置

(2) 多様な学生の確保と県民の学び・リカレント教育の支援

- ① AO入試や一般選抜における面接など、人物評価を重視した新たな入学者選抜方式を導入
- ② UIターンを含めた社会人の学士編入や多様な短期集中型講座の開講により大学院での学修に導くほか、観光学など地域のニーズに対応した独自企画の公開講座を実施
- ③ 海外大学や留学支援機関等との連携強化、留学生受入支援制度の拡充により、外国人留学生を増加

(3) 「福井の元気や持続可能性を支える大学」としての機能強化

- ① 実務家による講義や現場実習、地域包括ケアを学ぶ看護実習など、地域との関わりの中で自発性、社会性を養う教育を充実するほか、全ての学部等においてカリキュラムの点検・見直しを実施
- ② グローバル社会で活躍する人材を育成するため、短期留学支援制度の拡充等により、自らの専門性を磨くなど目的意識を持った海外への留学を促進
- ③ 実学的教育を推進するため、県の試験研究機関や産業界で活躍する県民を「講師」とするほか、地域連携や研究支援など、継続的・専門的な知識・経験を必要とする業務に地域人材を活用
- ④ 地域連携本部を核に、農業水産分野等において自治体や関係団体と継続的な協議の場を設けるなど、地域との連携を強化し、地域課題を解決する研究や地域貢献活動を推進

- ・ 中期計画の各項目については、今後具体化に向け、その内容をさらに検討
- ・ 中期計画の策定に当たっては、大学において財政収支見通しを明らかにした上で、健全な財政運営を堅持

第3期中期目標・計画（H31～H36）の体系

	中期目標 [地方独立行政法人法第25条に基づき、県が策定]	中期計画 [地方独立行政法人法第26条に基づき、中期目標を達成するため、大学が策定]
教育・研究	<ul style="list-style-type: none"> ○地方創生を担う人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本格的な人口減少社会が到来する中、全学部（経済学部、生物資源学部、海洋生物資源学部、看護福祉学部等）において、新学部・学科設置など定員を拡大し、時代の変化と地域社会のニーズに対応 ○世界トップレベルの研究推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 恐竜など本県独自の地域資源を活かし、世界トップレベルの研究・教育を進める。 ○実践的な教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現場において自ら課題を発見・解決するなど、社会性・自発性を養う教育を行う。 ○キャリア支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 産学官連携を強め、学生に実践的な職業教育を行うとともに、県内企業の魅力を発信する機会を充実するなど、県内定着に向けた就職支援の充実を図る。 ○入試制度の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の福井を担う人材を育成するため、主体的・積極的に自ら考え、行動する学生の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新学部・新学科等の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・ AI等を導入した生産から、加工販売、マーケティング、環境保全まで幅広く「農」を学ぶ新学科を設置 ・ 新魚種の導入や養殖技術の開発、新市場開拓などの水産増養殖を専門的に学ぶ新学科を設置 ・ 恐竜学研究所の学術成果等を基に、年縞に関する古気候学などを取り入れ、世界的な学術拠点となる古生物学関係の新学部を設置 ・ 地域の産業、自然、歴史、文化などの学修をベースに、現場力、マネジメント力を身に付けた次世代の地域リーダーを養成する新学部等を設置 ・ 看護の高度な教育・研究人材を育成する大学院看護学専攻の博士後期課程設置 ○カリキュラムの見直し <ul style="list-style-type: none"> ・ 実務家による講義や現場実習、地域包括ケアを学ぶ看護実習など、地域との関わりの中で自発性、社会性を養う教育を充実するほか、全ての学部等においてカリキュラムの点検・見直しを実施 ○多様な学生の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ AO入試や一般選抜における面接など、人物評価を重視した新たな入学者選抜方式を導入
地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ○社会人の学び直しと県民の生涯学習の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人の学び直しやスキルアップを支援するとともに、幅広い年代に対して学習機会と交流の場を提供する。 ○地域連携本部の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体や地域との交流、企業との共同研究などを進め、地域社会の課題解決に貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会人の学び直し支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ UIターンを含めた社会人の学士編入や多様な短期集中型講座の開講により大学院での学修に導くほか、観光学など、地域のニーズに対応した独自企画の公開講座を実施 ○専門性のある県民の積極活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県の試験研究機関や産業界で活躍する県民を「講師」とするほか、地域連携など、専門的な知識・経験を必要とする業務に地域人材を活用 ○地域連携本部の活動強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業水産分野等において自治体や関係団体と継続的な協議の場を設けるなど、地域との連携を強化し、地域課題を解決する研究や地域貢献活動を推進
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ○グローバル人材の育成強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル社会で活躍できる人材を育成するため、留学生の受入れ・派遣を進め、学生の国際的視野を涵養する。 ○留学生支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人留学生が良好な環境で学修し大学生活を送れるよう、各種支援の充実を努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○留学の更なる促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 短期留学支援制度の拡充等により、自らの専門性を磨くなど目的意識を持った海外への留学を促進 ・ 海外大学や留学支援機関等との連携強化、留学生受入支援制度の拡充により、外国人留学生を増加